



離島における在宅生活の基盤づくりに向けた取り組み (熊本県上天草市湯島地区)

○離島の為、地理条件が悪く、在宅サービスの進んでいない湯島地区において、高齢者が住み慣れた家や地域で暮らし続ける為に、地域の実情に応じた介護福祉サービス、生活支援サービス等の在宅生活の基盤づくりに取り組む

取組内容

- (1) 住民検討会の実施
- (2) 全世帯住民ニーズ調査の実施
- (3) 緊急通報システム設置
- (4) ヘルパー養成講座実施
- (5) 地域づくり講演会
- (6) つどい処よんなっせ(介護予防拠点)の改修
- (7) 「高齢者から子どもまで地域住民の集いの場づくり」事業



事業成果

- (1) 65歳以上の高齢者等の31世帯に緊急通報システムを設置
- (2) 湯島内に11名のホームヘルパーが養成された。
- (3) 地域支援事業として離島高齢者見守り事業が平成24年度より開始
- (4) 地域住民による介護予防事業等の検討、運営を継続して行うとの方向性が図られた。
- (5) 介護予防事業の実施を目的とした「つどい処よんなっせ」の改修。





(熊本県)

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

① 区町村名	上天草市
② 人口（※1）	(334人)
③ 高齢化率（※1） (65歳以上、75歳以上それぞれについて記載)	65歳以上高齢者 171人 (51.2%) 75歳以上高齢者 109人 (32.0%)
① 取組の概要	離島のため、地理条件が悪く、在宅サービスの進んでいない湯島地区について、高齢者が住み慣れた家や地域で暮らし続けるために、地域の実情に応じた介護福祉サービス、生活支援サービス等の在宅生活の基盤づくりを行う。
⑤ 取組の特徴	全島民に対し、聞き取りによりアンケート調査を実施し、把握した地域の声を検討委員会で検討し、各事業展開を行っていった。
⑥ 開始年度	平成23年度
⑦ 取組のこれまでの経緯	(1) 中山間地域等24時間在宅サービス提供モデル検討委員会 当事業の内容検討会の開催（計5回） (2) 住み慣れた地域の実態調査 湯島の実態に応じた介護・福祉サービス、生活支援等の必要なサービスを把握するために、全島民に対し訪問による聞き取りアンケートの実施 (3) ホームヘルパー養成講座の実施 平成23年12月～平成24年2月までに開催し、11名が受講 (4) 地域づくり講演会の実施 「島民の島民による島民のための介護保険のはなし」と題し、地域ケア研究所大石逸子氏による講演会を開催 (5) 高齢者から子供まで地域住民の集いの場づくり事業の実施 平成23年度ヘルパー養成の受講者や湯島サポートのメンバーを中心に、「あったかさサロン」を立ち上げ実施。介護予防拠点施設「よんなっせ」において、大人から子どもまでを対象とした地域交流事業を月平均15回開催し、継続した事業運営が行われた。
⑧ 主な利用者と人数	・ 中山間地域等24時間在宅サービス提供モデル事業検討委員会（湯島内の団体等より20人で構成する） ・ 各年代に対して事業を実施し、参加者総数142名
⑨ 取組の実施主体及び関連する団体・組織	実施主体：上天草市 委託事業者：上天草市社会福祉協議会
⑩ 市区町村の関与（支援等）（※2）	全事業に参画し、上天草市社会福祉協議会への事業支援を行った。
⑪ 国・都道府県の関与（支援等）（※3）	(県) 中山間地域等24時間在宅サービス等提供体制モデルづくり事業補助金500,000円
⑫ 取組の課題	・ 住民の50%を超える高齢者の虚弱高齢者の把握からフォローまでの介護予防体制の整備が必要 ・ 平成24年度については介護サービス事業所の参入がなかった





⑬今後の取組予定	・「湯島あったかサロン」が上天草市地域支援事業（介護予防拠点活性化事業）の委託を受け、月４回を目途に高齢者を対象として閉じこもり予防の茶話会を実施する。また、社会福祉協議会が小地域ネットワークで独居・虚弱高齢者の見守りをを行っているが、今後対応が困難な高齢者に対しての事例検討会等を開催し、介護予防体制づくりを行っていく。
⑭その他	・島民主体の事業が継続していけるように、上天草市社会福祉協議会と連携し事業展開を図る。
⑮担当部署及び連絡先	上天草市役所 高齢者ふれあい課 電話：０９６９－２８－３３６０

※１ 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。

※２ 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。

※３ 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。





上天草市高齢者福祉計画及び 第5期介護保険事業計画



平成24年3月
上天草市



5) 中山間地域等における在宅サービスの充実

現状と課題

湯島地区の高齢化率は50%を超えており、介護予防体制の充実が急務となっていますが、介護予防及び生活支援サービスが少なく、また有効活用できていない状況です。要介護が重度化すると介護サービスの供給が不足し、湯島地区における在宅生活が困難な状況となることが予想されます。

今後の取り組み

湯島地区における介護、医療、福祉及び生活支援サービスの整備状況・利用状況についての実態把握を行い、地域住民の支え合い活動を含めた生活支援サービスの展開について、検討を進めます。

具体的な事業

事業の名称	＜新規＞離島高齢者見守り事業【地域自立生活支援事業】					
事業概要	<p>住み慣れた湯島の自宅での生活が続けられるよう、生活支援サービス等の基盤づくりの一環として、安否確認を行い栄養バランスのとれた配食を実施します。</p> <p>○配食数：1食/日（月～金）</p> <p>○対象者：湯島在住。見守りが必要な方で、健康に配慮した食事の手配が困難な高齢者。</p> <p>○実施者：社会福祉協議会に委託</p>					
現状と課題	<p>湯島地区では、利用できる店やサービスなどの資源が少なく、地理的な面で閉じこもりがちとなり、見守りが難しい状況です。平成21年度～23年度に実施した「日常生活家事支援事業」では、70歳以上の高齢者の25%以上が利用しています。離島のため輸送コストがかかり物価が高いこともあり、今後も島外の民間事業者の参入は期待できない状況です。</p>					
今後の方向性	<p>見守りや栄養バランスを整え健康な身体を維持することで、住み慣れた湯島での生活が続けられるよう、事業を継続実施していきます。また、介護予防を進めるとともに、地域の実情に応じた介護・福祉サービス・生活支援等の在宅生活の基盤づくりを住民と一緒に取り組んでいきます。</p>					
実績値と目標値	第4期(実績値※H23は予測値)			第5期(目標値)		
	H21	H22	H23	H24	H25	H26
	実利用者数(人)	58	60	60	60	62
延配食数(食)	5,278	4,594	5,000	5,200	5,400	5,600



事業の名称	離島高齢者対策事業【地域自立生活支援事業】						
事業概要	<p>住み慣れた湯島の自宅での生活が続けられるよう、「ふれあい通所」をはじめとした、介護予防のための取り組みを行います。</p> <p>「ふれあい通所事業」</p> <p>○実施場所：湯島公民館</p> <p>○実施回数：1回/週</p> <p>○対象者：要介護・要支援認定を受けておらず、虚弱や閉じこもり傾向など介護予防の必要性のある湯島地区の高齢者</p> <p>○実施者：市内介護サービス事業所に委託</p>						
現状と課題	<p>湯島地区では、介護保険サービスをはじめとする資源が少なく、介護予防の一環として、生きがい型デイサービスを実施していますが、当初からの参加者も介護認定を受けたり、島外に移られたりと参加者が減ってきています。居宅はほとんどが傾斜地に建てられており、また公民館が地区の端にあるため徒歩で参加できる方に限られています。一次予防・二次予防を通して介護予防に関しての事業の活用が進んでおらず、また船を使用するため気候の影響を受けやすく、安定した体制がとれない状況です。</p>						
今後の方向性	<p>住み慣れた湯島での生活が続けられるよう、既存の「ふれあい通所」の周知に努め、活用を広げて介護予防を進めます。また、介護予防に対する啓発を進め、一次予防・二次予防事業が連動して効果的な介護予防につながるよう事業の見直しを図ります。</p>						
実績値と目標値	第4期(実績値※H23は予測値)			第5期(目標値)			
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
	実施回数(回)	49	50	50	50	50	50
	参加実人数(人)	13	8	8	12	15	15
参加延人数(人)	435	261	260	380	500	500	

